

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業（平成 29 年度）
工学院大学総合研究所 都市減災研究センター（UDM）業績報告書
テーマ 1 業績一覧

査読付き論文

1. 安藤 繁、村上正浩、山下てつろう、病院の災害時診療圏を設定し来院負傷者を推計する方法 災害時における負傷者の受療行動パターンに関する研究 その 1、日本建築学会計画系論文集、No. 739、pp. 2249-2255、2017 年 9 月

学術雑誌、商業誌、研究機関への研究報告、展望、解説、論説など

1. 村上正浩、中心市街地の災害対応力向上のための教育・訓練プログラム—新宿駅周辺地域における実践事例一、危機管理レビュー、vol. 9、2018 年 3 月（掲載決定）
2. 佐藤正之、永井岳大、福田一帆、近藤 悟、竹内広太、ヒューマンインフォメーションの研究動向 映像情報メディア学会、71(6)、pp. 839-845 2017
3. 藤賀雅人「オーダーメイドの再開発をどこまで進められるか」再開発コーディネーター、No. 192、p. 1、2018. 3
4. 藤賀雅人「事例編 東京都墨田区 一寺言問を防災のまちにする会（一言会）」地域主体のまちづくり参考書、都市計画家協会、p. 53、2017. 12
5. 藤賀雅人「事例編 東京都新宿区 新宿駅周辺防災対策協議会」地域主体のまちづくり参考書、都市計画家協会、p. 54、2017. 12
6. 藤賀雅人「アドバイス 防災まちづくり」地域主体のまちづくり参考書、都市計画家協会、p. 56、2017. 12

招待講演

1. 村上正浩、避難所開設キットを活用した避難所訓練について、文京区避難所運営協議会、2018 年 3 月 16 日
2. 村上正浩、被害を軽減する地域コミュニティの力～「個」と「地域」の防災力を高めるために～、ねりま防災カレッジ防災講演会、2018 年 3 月 4 日
3. 村上正浩、ターミナル駅周辺地域のエリア防災対策、第 62 回エネルギー・環境講習会、2018 年 2 月 15 日
4. 村上正浩、地域の防災対策について-「個」と「地域」の防災力を高めましょう-、平成 29 年度家庭防災フェスティバル講演会（福生消防署管内消防連絡協議会）、2017 年 12 月 3 日
5. 村上正浩、大地震への備え-避難所の開設・運営について、平成 29 年度新宿区地域本部研修、2017 年 9 月 5 日
6. 村上正浩、新宿駅周辺地域の帰宅困難者対策・地震防災対策-新宿駅周辺地域の帰宅困難者対応の経験を踏まえて、2017 年度第 1 回三宮駅帰宅困難者対策協議会、2017 年 8 月 10 日
7. 藤賀雅人、世田谷区 防災まちづくりフォーラム「密集市街地で”暮らし続ける”-暮らし続けるための家づくり・街づくり-」2018. 1
8. 藤賀雅人、ISFJ 日本学生政策会議 政策フォーラム 都市政策コメンテーター、2017. 12

口頭発表

1. 柳田悠太郎、村上正浩、新宿駅周辺地域を対象としたエリア災害対応支援システムの開発、2017 年度（第 88 回）関東支部研究発表会、2018 年 3 月 2 日
2. 柳田悠太郎、村上正浩、新宿駅周辺地域の災害対応を支援するエリア災害対応支援システムの開発、社会貢献学会第 8 回大会、2017 年 12 月 2 日
3. 土屋瑛博、村上正浩、地域特性を踏まえた避難所運営の課題把握と課題解決のための効果的な運営方法の検討 新宿区内の 51 避難所を対象として、社会貢献学会第 8 回大会、2017 年 12 月 2 日
4. 村上正浩、大規模災害時におけるより良い支援のあり方を考える、社会貢献学会第 8 回大会フォーラム、2017 年 12 月 2 日
5. 新藤 淳、村上正浩、新宿駅周辺地域への実装を見据えた災害対応へのドローン活用に関する検証実験 その 2 ドローンを用いた情報収集・発信実証実験の概要、日本建築学会 2017 年度大会、2017 年 9 月 2 日
6. 村上正浩、新藤 淳、新宿駅周辺地域への実装を見据えた災害対応へのドローン活用に関する検証実験 その 1 新宿駅周辺地域の震災対応の考え方と実験の想定、日本建築学会 2017 年度大会、2017 年 9 月 2 日
7. 柳田 悠太郎、村上 正浩、山下 倫央、歩行者シミュレーションによる新宿駅周辺地域の行動指針の効

- 果検証、日本建築学会 2017 年度大会、2017 年 9 月 2 日
8. 安藤 繁、村上 正浩、山下 哲郎、災害時診療圏の設定と来院重傷者数の推計に関する研究、日本建築学会 2017 年度大会、2017 年 9 月 2 日
 9. 高橋祐哉、福田一帆、3DVR 空間における歩行者群衆移動からの大域的運動検出特性と視点位置の影響、映像情報メディア学会ヒューマンインフォメーション研究会、2018 年 3 月
 10. 二橋舜輝、藤賀雅人「不燃化推進特定整備地区における建替え助成制度の運用実態」日本建築学会関東支部研究発表会、2018. 3
 11. 大井雅代、藤賀雅人「郊外住宅地の密集市街地整備に対する事業変更と協議体制の関係性に関する研究 -川口市芝地区における土地区画整理事業解除後の動向に着目して-」日本建築学会関東支部研究発表会、2018. 3
 12. 二橋舜輝、藤賀雅人「木造密集市街地整備におけるストック更新型助成制度の設定と運用実態 -東京都不燃化推進特別地区制度を対象として-」社会貢献学会第 8 回大会、pp. 109-110、2017. 12

外部資金の獲得

1. 村上正浩、文部科学省・科研費・基盤 C/2017~2020 年度/2,500 千円、大規模ターミナル駅周辺地域の都市型オールハザード対応の標準化モデルの開発（研究代表）
2. 村上正浩、総務省消防庁・平成 29 年度消防防災科学技術研究推進制度/2017 年度/有線 Drone を利用した移動型火のみやぐらと G 空間システム連携の研究（研究支援）
3. 村上正浩、新宿区・受託研究/2017 年度/5,000 千円/新宿駅周辺防災まちづくり事業及び新宿駅周辺防災対策協議会西口地域訓練業務（研究代表）
4. 村上正浩、新宿区・受託研究/2017 年度/3,000 千円/避難所運営管理訓練等企画運営業務（代表）
5. 村上正浩、科学技術振興機構・SIP/2014~2018 年度/7,929 千円/巨大都市・大規模ターミナル駅周辺地域における複合災害への対応支援アプリケーションの開発（研究分担）
6. 境野健太郎、文部科学省・科学研究費補助金、基盤研究(B)，平成 25-27 年度、南海トラフ地震に備えた事前の「復興計画」の提案 地域文脈の解説と集落・都市の再編、研究分担者（研究代表者：木多道宏（大阪大学））、13,800 千円
7. 境野健太郎、鹿児島大学、鹿児島大学奄美豪雨災害調査委員会、平成 23 年度、2010 年奄美豪雨による都市災害と復旧、研究分担者（研究代表者：木方十根（鹿児島大学））
8. 藤賀雅人、一般財団法人民間都市開発推進機構 都市再生研究助成/平成 28~29 年度/2,200 千円、2021 年以降を見据えた木造密集市街地のストック更新と共有空間の包括的評価手法の検討」（研究代表者）

各種メディア（新聞・テレビ・ラジオなど）・展示会等で公表

1. 村上正浩、新宿駅周辺防災対策協議会の取り組み、工学院大学・私立大学ブランディング事業の取り組み、第 22 回「震災対策技術展」横浜、2018 年 2 月 8 日・9 日
2. 村上正浩、飲食店地震時マニュアル、読売新聞朝刊都民 14 版、25 面、2017 年 12 月 29 日
3. 村上正浩、防災 WEEK2017 “新宿ならでは” 炊き出し、J:COM デイリーニュース、2017 年 11 月 20 日
4. 村上正浩、避難者に安心安全な場を提供する『EvaQuick』、Innovation Big-West、2017 年 11 月 1 日
5. 村上正浩、最新機器で被害防げ ドローン使い建物確認、北海道新聞、2017 年 10 月 27 日
6. 村上正浩、高層ビル街の防災にもドローン 工学院大など チーム・新宿」が推進、ドローンタイムズ、2017 年 9 月 1 日
7. 村上正浩、避難者に安心安全な場を提供する『EvaQuick』、イノベーションジャパン 2017、2017 年 8 月 31 日
8. 村上正浩、都市防災先端技術の力 パニック回避へ訓練計画探る、朝日新聞朝刊、2017 年 5 月 28 日
このほか、12 月 12 日に実施したドローンを活用した実証実験に関する新聞記事等 22 件、11 月 6 日~22 日に開催した新宿防災ウィーク 2017 に関する新聞記事等 23 件

輩出した博士・修士・学士（博士は氏名・表題・取得年月日、その他は人数のみ）

学士 12 名（村上）、学士 3 名（福田）、学士 15 名（境野）、学士 9 名（藤賀研）：学士計 39 名

その他（報告会・シンポジウムの主催・共催など）

1. 村上正浩、新宿防災ウィーク 2017、2017 年 11 月 6 日~22 日
2. 村上正浩、平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会セミナー・講習会・訓練、2017 年 7 月~2018 年 3 月（セミナー 3 回、講習会 5 回、訓練 1 回）
3. 藤賀雅人、日本建築学会事前復興・災害対策小委員会「福島復興の環境都市計画の視点からの検証および災害復興準備に関する公開研究会」2018. 3

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業（平成 29 年度）
工学院大学総合研究所 都市減災研究センター（UDM）業績報告書
テーマ 2 業績一覧

著書

1. 田村雅紀, 平常時・災害時におけるコンクリートのサステナビリティと品質保証の接点, コンクリート診断士研修テキスト, 日本コンクリート工学会, pp.93-102、2017.9
2. 田村雅紀, 高炉セメントまたは高炉スラグ微粉末を用いる鉄筋コンクリート造の設計・施工指針案同解説, 日本建築学会 材料施工委員会 環境配慮運営委員会, pp.155-168、2017.9
3. 原英嗣、西川豊宏、現場で役立つ管工事の基本と実際、株式会社秀和システム、2017
4. 久田嘉章、1 章：新宿駅周辺における大震災時の多数傷病者に関する地域連携による対応力向上の取り組み（分担）、病院からの全患者避難～災害医療フォーラム全講演～pp.162-179、2017.9

査読付き論文

1. 田中信也, 引間 和人, 久田嘉章、震源インバージョン結果に基づく地震発生層以浅におけるすべり速度時間間数の評価、日本地震工学会論文集、Vo. 17, No. 8, pp. 1-20, 2017. 11
2. 岩澤 瞭、山下哲郎、大スパン H 形鋼ラーメンの非弾性地震応答による累積たわみに関する研究、日本建築学会構造系論文集 2018 年 6 月 第 83 巻 第 748 号 (掲載決定)
3. 野原大樹、伊藤賢治、渡辺俊也、山下哲郎、鉄骨置屋根構造ピン支承部の復元力特性に関する研究、鋼構造年次論文集, Vol. 25 pp. 303-310, 2017 年 11 月 (アブストラクト査読)
4. 岡 健太郎, 田村雅紀, 後藤治, 津村泰範, 文化財建造物の木摺り漆喰天井における浸透性樹脂を用いた補修工法の実施工検討, 日本建築学会技術報告集, pp. 789-796, Vol. 23, NO. 55, 2017 年 10 月
5. 岡 健太郎, 田村雅紀, 後藤治, 漆喰仕上げ天井における補修工法の開発, 日本建築学会技術報告集, Vol. 23, NO. 54, pp. 403-408, 2017 年 6 月
6. 岡 健太郎, 田村雅紀, 後藤治, 歴史的建造物における既存左官天井の非破壊による健全度評価の基礎的検討, 日本建築学会構造系論文集, 第 82 巻, 第 736 号, pp791-800 2017 年 6 月
7. 岡 健太郎, 田村雅紀, 後藤治, 材料物性と下地仕様の観点からみた木摺り漆喰天井部材における基本性能と健全度評価に関する実験的検討, 日本建築学会構造系論文集, 第 82 巻, 第 731 号 2017 年 1 月
8. 西川豊宏, 浅倉佑介, 事務所建物における給水原単位と雨水利用に関する調査研究 第 1 報—実測データに基づく水使用実態と雨水利用設備容量の評価, 空気調和・衛生工学会論文集, 2018.3 (掲載予定)

国際学会論文 (査読付も含む)

1. T. Kanemaki, M. Tamura, Construction technologies and systems of shelters and temporary houses for improving the living environment for people with pets in disaster situations, 14th International Conference on Durability of Building Materials and Component, DBMC, Gent, 2017
2. M. Tamura and S. Sayama, Improvement Effect on Mechanical Properties of Cementitious Woodchip Compound Board introducing Stimulating Agent of Seawater in Disaster Situation for Resilience Measures in Disaster Situation Toward Sustainability, 14th International Conference on Durability of Building Materials and Component, DBMC, Gent, 2017
3. K. Tsuchida, M. Tamura, Development of Structural and Finishing Materials Utilizing Unused Local Resources in the Asian Region, 13th KOREA-JAPAN Joint symposium on Building materials & Construction, Korea Hanbat, 2017. 8
4. M. Umamoto, M. Tamura, Variation Color of Local Produced Mud Wall as Landscape Element form Stand Point of Japan Regional Characteristics in Asia, 13th KOREA-JAPAN Joint symposium on Building materials & Construction, Korea Hanbat, 2017. 8
5. T. Nishikawa, Evaluation of unit design water supply amounts and characteristics of water consumption based on measured building use, Proceedings the 43rd International Symposium of CIB W062 Water Supply and Drainage for Buildings, 2017. 8
6. K. YAGASAKI, T. Nishikawa, Maintaining the Functionality of a Plumbing System, Proceedings the 43rd International Symposium of CIB W062 Water Supply and Drainage for Buildings, 2017. 8

学術雑誌、商業誌、研究機関への研究報告、展望、解説、論説など

1. 久田嘉章、田中信也、2016 年熊本地震の断層近傍の強震動特性と地表地震断層近傍の建物被害調査、第 45 回地盤震動シンポジウム「2016 年熊本地震に学び、将来の強震動予測を考える」、日本建築学会、

2017. 11

2. 久田嘉章、首都圏複合災害への対応・減災支援技術<巨大都市・大規模ターミナル駅周辺地域における複合災害への対応支援アプリケーションの開発>、建築設備と配管工事、日本工業出版、55 巻、13 号、pp. 9-15, 2017. 11
3. 久田嘉章、第 7 回「数千年に一度の最大級地震に対する建物の対策（その 3：逃げる必要のない建物とまちを目指して）」、NHK そなえる防災、2017. 9
4. 久田嘉章、震源近傍の強震動、長周期、長時間地震動の特性と建物の耐震対策、日本振動技術協会 振動技術 免震特集、NO. 35、pp. 21-25, 2017. 5
5. 久田嘉章、第 6 回「第 6 回 数千年に一度の最大級地震に対する建物の対策（その 2：活断層近傍の建物対策）」、NHK そなえる防災、2017. 5
6. 久田嘉章、活断層帯の地震に対するレジリエントな建物対策 ～数千年に一度の地震にどう立ち向かうべきか～、Structure、一般社団法人日本建築構造技術協会、140 号、2017. 4
7. 久田嘉章、2016 年熊本地震で観測された震源近傍強震動、および地表地震断層による建物被害、特集「熊本地震から見えてきたのも」地震動②、建築雑誌 4 月号、日本建築学会、2017. 4
8. 後藤治、田村雅紀、小林直弘、岡崎かんき他、旧茨城県立土浦中学校本館、木摺漆喰天井剥落防止補強技術の適用、2018 年 1 月
9. 田村雅紀、建築教育部門—パネルディスカッション 遺産的建築物をめぐる 新技術展開と教育・伝承主旨説明 田村雅紀（工学院大学）pp. 7-16, 2017. 9
10. 橘高義典、田村雅紀、北垣亮馬、堀竹市、渡辺清彦、蝦名浩二、成田至弘、蛇口洋平、2017 台日建築外装材の診断・改修技術シンポジウム参加報告、月刊リフォーム 2018 年 2 月号、pp26-31, 2018. 2
11. 田村雅紀、小野航太郎、築 27 年経過した超高層ビルから採取したシーリング材の外部環境影響を踏まえた劣化度調査、月刊リフォーム 2018 年 2 月号、pp. 52-56, 2018. 2
12. 田村雅紀、中田倫、牧野萌子、建築単体ではなく建築部位の構成材料として性能を示す必要がある、建材フォーラム、No. 495 2017 年 11 月号、pp12-15, 2017. 11
13. 田村雅紀、建築仕上げの将来像を語る、建築仕上げ技術 pp38-54, Vol. 43, No. 505, 2017. 8
14. 田村雅紀、金巻とも子、14th International Conference on Durability of Building Materials and Component (DBMC) 参加報告、Finex, Vol. 29. No. 173 , pp. 24-25, 2017. 7
15. 田村雅紀、他、建築物の資源利活用に向けた災害時におけるレジリエンス対応技術の最前線と今後の展開～東日本大震災から熊本地震を踏まえて～ 日本建築学会・資源活用による建築・都市のレジリエンス小委員会 2017 年 3 月

招待講演

1. 久田嘉章、・周期地震動に対する・助・共助による超高層建築の備え、緊急地震速報防災講演会 in 大阪「緊急地震速報 10 周年～緊急地震速報のこれから～」、気象庁、阿倍野区民センター 2 階大ホール、2018. 2. 14
3. 久田嘉章、震災から学ぶ建物・まちの地震防災・減災～1923 年関東大震災から 2016 年熊本地震まで～、第 22 回「震災対策技術展」横浜、パシフィコ横浜、2018. 2. 8
4. 久田嘉章、災害時、逃げる必要のない建物とまちづくり、麹町アカデミア・遊学堂（ビジネスエアポート東京）、日本生命丸の内ガーデンタワー（ビジネスエアポート東京）、2018. 2. 6
5. 久田嘉章、長周期地震動に対する自助・共助による高層集合住宅の備え、体験型防災イベント「大地震へのソナエ」、気象庁、東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」、2018. 2. 2
6. 久田嘉章、長周期地震動に対する自助・共助による高層オフィスビルの備え、体験型防災イベント「大地震へのソナエ」、気象庁、東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」、2018. 2. 2
7. 久田嘉章、首都直下地震の被害想定と過去の震災に学ぶ予防対策、慶応義塾大学東村山三田会（第 3 回講演会）、東村山市西口 サンパルネ、2018. 1. 20
8. 久田嘉章、数千年に一度の地震と想定すべき設計用・検証用地震動、第 17 回免震フォーラム「免震建築のこれからを考える」、日本免震構造協会、青年館ホール、2017. 12. 18
9. 久田嘉章、過去の震災から学ぶ建物防災～関東大震災から熊本地震までの教訓～、読売新聞土地活用セミナー、品川イーストワンタワー 21 階、2017. 12. 9
10. 久田嘉章、長周期地震動による高層ビル被害と対策、防災ウィーク「新宿ならでは防災」、新宿駅周辺防災対策協議会、工学院大学新宿校舎、2017. 11. 6
11. 久田嘉章、最近の活断層や海溝型巨大地震の強震動特性と設計用地震動に適用する上での注意点、高圧ガス設備等耐震設計講座、高圧ガス保安協会、TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター、2017. 10. 24
12. 久田嘉章、首都直下地震の地震被害想定とレジリエントな災害対策～過去の震災事例や新宿での取り組み～、横浜駅西口共同防管・防災講演会、横浜市民防災センター研修室、2017. 10. 12

13. 久田嘉章、首都直下地震の被害想定と建物・まちの災害対策～関東大震災から熊本地震までの過去の震災からの教訓から学ぶ～、東京建築士会 練馬支部、石神井公園区民交流センター、2017.05.25

口頭発表

1. 久田嘉章、2016年熊本地震に学ぶ活断層近傍の建築・まちの震災対策、社会貢献学会、第8回大会、2017年12月2日
2. 中西真子、久田嘉章、山下哲郎、笠井和彦、超高層建築の効果的な補強方法と評価、社会貢献学会 第8回大会、2017年12月2日
3. 金田惇平、久田嘉章、田中信也、2016年熊本地震における地表地震断層近傍の強震動特性と建物被害(その2)益城町と下陣の強震動特性の違いに関する考察、2017年秋大会 日本地震学会、2017.11.25
4. 久田嘉章、金田惇平、中村航、田中信也、2016年熊本地震における地表地震断層近傍の強震動特性と建物被害(その3)建物被害調査と推定される強震動特性、2017年秋大会 日本地震学会、2017.10.25
5. 田中信也、引間和人、金田惇平、久田嘉章、2016年熊本地震における地表地震断層近傍の強震動特性と建物被害(その1)益城町と西原村の観測記録の再現性に関する一考察、2017年秋大会 日本地震学会、2017年10月25日
6. 久田嘉章、中村航、2016年熊本地震の地表地震断層近傍の建物被害調査 その2 下陣・高木地区での調査結果と活断層近傍の建物対策、2017年度日本建築学会大会(中国)、2017年9月3日
7. 中村航、久田嘉章、2016年熊本地震の地表地震断層近傍の建物被害調査 その1 悉皆調査の概要と南阿蘇村での調査結果、2017年度日本建築学会大会(中国)、2017年9月3日
8. 鱈沢曜、久田嘉章、超高層ビルにおける傷病者の階段降下搬送に関する研究、2017年度日本建築学会大会(中国)、2017年9月2日
9. 田中信也、金田惇平、引間和人、久田嘉章、地震発生以浅に適用可能なすべり速度時間関数の評価 その2 規格化 Yoffe 関数に基づく近似式、2017年度日本建築学会大会(中国)、2017年9月1日
10. 金田惇平、田中信也、引間和人、久田嘉章、地震発生以浅に適用可能なすべり速度時間関数の評価 その1 1999年集集地震を対象とした検討、2017年度日本建築学会大会(中国)、2017年9月1日
11. 寺本彩乃、鱈沢曜、久田嘉章、極大地震動による耐震建物の応答特性に関する研究、2017年度日本建築学会大会(中国)、2017年8月31日
12. 石川理人、久田嘉章、2014年長野県北部地震における建物被害調査と強震動シュミレーション、2017年度日本建築学会大会(中国)、2017年8月31日
13. 金田惇平、久田嘉章、Parameter Study on Near Fault Strong Ground Motion Considering Randomness of Faulting Process、日本地球惑星連合大会、2017年5月24日
14. 田中信也、引間和人、久田嘉章、地震発生層以浅に適用可能なすべり速度時間関数の評価、日本地球惑星科学連合大会、2017年5月21日
15. 久田嘉章、2016年熊本地震における地表地震断層の直上の建物被害と対策、日本地球惑星科学連合大会、2017年5月20日
16. 野原大樹、伊藤賢治、渡辺俊也、山下哲郎、鉄骨置屋根構造ピン支承部の復元力特性に関する研究、鋼構造シンポジウム、2017年11月
17. 青木花子・中西真子・山下哲郎・久田嘉章・笠井和彦、極大地震動を考慮した既存超高層建築の耐震性能とダンパー補強効果の評価 その2 マイナー則を用いた疲労損傷度評価、2017年度日本建築学会大会(中国)(学術講演梗概集B-2 pp.5-6)、2017年8月
18. 中西真子・青木花子・久田嘉章・山下哲郎・笠井和彦、極大地震動を考慮した既存超高層建築の耐震性能とダンパー補強効果の評価 その1 極大地震動を考慮した既存超高層建築のダンパー補強効果とブレース破断の検討、2017年度日本建築学会大会(中国)(学術講演梗概集B-2 pp.3-4)、2017年8月
19. 荒井雄大・山下哲郎、常時微動計測による鉄骨大庇の振動特性の同定及び地震応答推定、2017年度日本建築学会大会(中国)(学術講演梗概集B-1 pp.971-972)、2017年8月
20. 岩澤瞭・山下哲郎、鉄骨造体育館梁間方向ラーメン構造の塑性化挙動に関する研究 その4 地震力を受ける際の累積たわみとパネル塑性化の関係、2017年度日本建築学会大会(中国)(学術講演梗概集B-1 pp.851-852)、2017年8月
21. 岡田淳史・山下哲郎、弾性支承を用いた鉄骨置屋根体育館支承部のせん断応力に関する研究 その2 簡易2質点モデルによる地震応答評価、2017年度日本建築学会大会(中国)(学術講演梗概集B-1 pp.805-806)、2017年8月
22. 渡辺俊也・和田直記・山下哲郎、鉄骨置屋根構造ピン支承部の復元力特性に関する研究 その3 支承部の復元力特性を反映した鉄骨置屋根構造の静的増分解析、2017年度日本建築学会大会(中国)(学術講演梗概集B-1 pp.803-804)、2017年8月
23. 野原大樹・伊藤賢治・和田直記・山下哲郎、鉄骨置屋根構造ピン支承部の復元力特性に関する研究 その

- の2 実験結果の分析, 2017年度日本建築学会大会(中国)(学術講演梗概集 B-1 pp.801-802), 2017年8月
24. 伊藤賢治・野原大樹・和田直記・山下哲郎, 鉄骨置屋根構造ピン支承部の復元力特性に関する研究 その1 2軸加力実験の概要, 2017年度日本建築学会大会(中国)(学術講演梗概集 B-1 pp.799-800), 2017年8月
 25. 田村雅紀, 材料教育検討WG活動報告, 第17回建築教育シンポジウム, 建築教育研究論文報告集 No.18, 2017.12
 26. 田村雅紀, 原田香菜, ガラスと仕上材を合わせた意匠化粧材の開発と視覚的印象評価, 2017年度日本色彩学会・環境色彩研究会研究発表会, 2018.2
 27. 田村雅紀, 梅本真穂, 景観構成要素となる地産壁土の地域特性から見た色彩分布の評価式, 2017年度日本色彩学会・環境色彩研究会研究発表会, 2018.2
 28. 田村雅紀, 六角暁, 横田将吾, 長崎翼, 2017年 ISAT ジャパン アジア・モンスーン地域住宅における自然災害対応型一建設技術の開発・普及, ポスターセッション, 2017.8 工学院大学
 29. 田村雅紀, 2017年イノベーションジャパン アジア・モンスーン地域住宅における自然災害対応型一建設技術の開発・普及 ショートプレゼン, 2017.8 東京ビックサイト
 30. 長崎翼, 田村雅紀, 東南アジア地域レンガ造住居壁面の繊維補強シート面材による変形抵抗性の改善 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 31. 横田将吾, 田村雅紀, ALCブロック外壁の繊維補強による変形抵抗性の確保に関する研究 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 32. 半座三紗子, 田村雅紀, 岡健太郎, 後藤 治, 遺産的建造物におけるラス漆喰天井の劣化状態の評価・検証実験 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 33. 小林将希, 田村雅紀, 岡健太郎, 後藤 治 木摺り漆喰天井における木摺り下地面への補修樹脂充填度の可視化, 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 34. 石川隆司, 田村雅紀, 中田 倫, 牧野萌子 内装左官仕上げの構法による性能・機能を比較する試験体の作製, 左官材料を中心とした仕上げ壁の機能性評価 その1, 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 35. 中田 倫, 田村雅紀, 金巻とも子, 石川隆司, 各種内装左官仕上げの VOC 除去特性の比較-左官材料を中心とした仕上げ壁の機能性評価-その2 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 36. 中田倫, 田村雅紀, 金巻とも子, 石川隆司, 各種内装左官仕上げの臭い除去・抗菌特性の比較-左官材料を中心とした仕上げ壁の機能性評価-その3 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 37. 牧野萌子, 田村雅紀, 石川隆司, 金巻とも子, 各種内装左官仕上げ壁の調湿性能の測定・比較-左官材料を中心とした仕上げ壁の機能性評価-その4 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 38. 牧野萌子, 田村雅紀, 石川隆司, 金巻とも子, 各種左官仕上げ壁の防音特性の比較 - 左官材料を中心とした仕上げ壁の機能性評価 - その5 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 39. 鈴木悠人, 田村雅紀, 窯業系サイディング廃材を用いた再生ガラス質系資材への水平リサイクル化 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 40. 乙幡祐平, 田村雅紀, 超高層ビルのタイル施工部材における打診検査時反発波の周波数特性・エネルギーと劣化性状の相関評価 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 41. 大野 彩, 田村雅紀, 各種内外装材料の汚れ意識調査と汚れ洗浄処理による印象改善度の評価 2017年度 日本建築学会関東支部研究報告集1, CD-ROM, 2018.3
 42. 田村雅紀, 小野航太郎, 築27年経過した超高層ビルから採取したシーリング材の外部環境影響を踏まえた劣化度調査, 2017年度日本建築仕上学会研究発表論文集, pp.73-76, 2017.10
 43. 田村雅紀, 尾林岳, 外壁タイル補修工事の実態調査を踏まえた弾性接着剤の補修実験と損害・工事費用リスクの調査, 2017年度日本建築仕上学会研究発表論文集, pp.13-16, 2017.10
 44. 土田健太, 田村雅紀, 地産材料を改良活用した左官仕上げの検討, その2 未利用地産資源の調査及びモルタル活用による印象評価, pp.105-108, 2017年度日本建築仕上学会研究発表論文集, 2017.10
 45. 梅本真穂, 田村雅紀, 壁土の風土から見る色彩特性と地域特性の評価, その2 含有酸化物測定と土地条件の分析, 2017年度日本建築仕上学会研究発表論文集, pp.109-112, 2017.10
 46. 金巻とも子, 田村 雅紀, ペット共棲住環境の QOL 改善を目的とした建築技術・システムに関する基礎的検討 その6 左官調軽量調湿内装壁面への引掻き傷の印象評価, pp923-924, 2017年度日本建築学会学術講演梗概集, CD-ROM, 2017.9
 47. 田村雅紀, 金巻とも子, ペット共棲住環境の QOL 改善を目的とした建築技術・システムに関する基礎

- 的検討 その5 左官調軽量調湿内装壁面への引掻き傷の物理特性、pp. 921-922、2017年度日本建築学会学術講演梗概集、CD-ROM、2017.9
48. 土田健太、田村雅紀、地域特性を踏まえた地産資源による建築資本改良 その2 未利用地産資源の調査・検討及びモルタル活用による印象評価、pp. 1061-1062、2017年度日本建築学会学術講演梗概集、CD-ROM、2017.9
 49. 梅本真穂、田村雅紀、地域特性を踏まえた地産資源による建築資本改良 その1 景観構成要素となる土材の色彩分布、pp. 1059-1060、2017年度日本建築学会学術講演梗概集、CD-ROM、2017.9
 50. 土田健太、田村雅紀、未利用地産資源を改良活用した無機系構造・仕上材料の開発、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 217-220、2017.3
 51. 梅本真穂、田村雅紀、地域特性から見た景観構成要素となる地産壁土の色彩分布、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 73-76、2017.3
 52. 梅原優、田村雅紀、窯業系サイディングの資源循環を可能にする再生材の研究、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 225-228、2017.3
 53. 小野航太郎、田村雅紀、築27年経過した超高層ビルから採取したシーリング材の外部環境影響を踏まえた劣化度調査、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 261-264、2017.3
 54. 村松凌、田村雅紀、天然鉱物含有型仕上塗材の熱的作用による劣化影響と苔植物の定着関係、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 229-232、2017.3
 55. 中島駿介、田村雅紀、後藤治、5年間の屋外暴露による外部影響を受けた柿葺き屋根の劣化指標提案、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 65-68、2017.3
 56. 原田香菜、田村雅紀、ガラスと仕上材を合わせた意匠化粧材の開発と視覚的印象評価、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 245-248、2017.3
 57. 佐藤勇太、田村雅紀、既存コンクリート構造体の赤外線サーモグラフィ装置を用いたひび割れ深さ検出、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 5-8、2017.3
 58. 岡健太郎、田村雅紀、後藤治、津村泰範、建築物のLCMにおける維持保全と保存的活用ストラテジー その4 既存木摺漆喰天井の補修工法による岩手銀行旧本店本館への試験施工、2016年度日本建築学会関東支部研究報告集1、pp. 53-56、2017.3
 59. 西川豊宏、浅倉佑介、実測調査に基づく建築物の水使用特性と給水原単位の評価(その1)実測の概要と水使用量について、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)、pp. 607-608、2017.8
 60. 浅倉佑介、西川豊宏、実測調査に基づく建築物の水使用特性と給水原単位の評価(その2)給水原単位と雨水利用、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)、pp. 609-610、2017.8
 61. 矢ヶ崎啓介、西川豊宏ほか、事業継続計画策定を支援する建築の非構造部材・建築設備の地震リスクに関する研究(その11)給排水衛生設備の耐震性能予測、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)、pp. 661-662、2017.8
 62. 矢ヶ崎啓介、西川豊宏ほか、事業継続計画策定における建築設備の地震リスクに関する研究(第7報)給排水衛生設備の耐震性能について、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集(高知)、pp. 93-96、2017.9
 63. 浅倉佑介、西川豊宏、実測調査による給水原単位と雨水利用の評価に関する研究、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集(高知)、pp. 161-164、2017.9

外部資金の獲得

1. 久田嘉章、文部科学省・科研費・基盤C一般/平成28~30年度/1,430千円、震源近傍の強震動予測手法の開発と工学的利活用に関する研究(研究代表者)
2. 久田嘉章、文部科学省・科研費・基盤A一般/平成26~29年度/338千円、巨大地震の長周期地震動による超高層住宅の生活継続プランの構築に関する系統的研究(研究代表者: 京都大学 川瀬博)
3. 久田嘉章、大都市・大規模ターミナル駅周辺地域における複合災害への対応支援アプリケーションの開発(代表)、SIP(戦略的イノベーション創造プログラム) 課題「レジリエントな防災・減災機能の強化」/平成26~30年度/7,930千円
4. 久田嘉章、山下哲郎、大地震時の強震動予測手法の開発と超高層建築の耐震対策への適用、工学院大学 総合研究所プロジェクト研究費/平成26~30年度/650千円
5. 久田嘉章、指定研究費: 7社共同研究・地震動ワーキンググループ(代表 西松建設) /500千円
6. 久田嘉章、指定研究費: 株式会社 ダイナミックデザイン /1,000千円
7. 久田嘉章、指定研究費: 株式会社 ダイナミックデザイン /1,000千円
8. 山下哲郎、文部科学省・科研費・基盤A一般/平成28~30年度/1,300千円(1,000千円)、吊り天井システムの地震時の損傷発生機構とその被害軽減方法に関する研究(研究代表者: 東京工業大学 元結正次郎)

9. 山下哲郎、指定研究費：川金コアテック株式会社／ゴム支承部の実験／780千円
10. 西川豊宏、文部科学省・科研費・基盤 A 一般／平成 28～32 年度／吊り天井システムの地震時の損傷発生機構とその被害軽減方法に関する研究(研究分担者)
11. 西川豊宏、文部科学省・科研費・基盤 C 一般／平成 28～30 年度／給排水ライフラインの機能維持と災害レジリエンス向上に関する研究(研究代表者)

知的財産権の取得（国内特許、国外特許、実用新案、著作権など）

1. 2017 年 8 月 18 日、特願 2017-157926 建築物の壁構造を構成するブロック体のシート面材による補強方法、発明者：田村雅紀，小川 忠靖
2. 2017 年 7 月 27 日 海外 PCT/JP2017/027341 天井の修復方法及び壁の修復方法、発明者；後藤治，田村雅紀，丸山紘明，横島順一，石崎斯征

各種メディア（新聞・テレビ・ラジオなど）・展示会等で公表

1. 久田嘉章、新宿新聞「大地震が都心を襲ったら・都市直下型地震新宿駅周辺防災対策協議会、防災ウィークでの工学院大学のイベント・講演会」の様子を掲載、2018. 2. 5
2. 久田嘉章、建通新聞、免震建築の「これから」を考える、「数千年に一度の地震と想定すべ恋設計用・検証用地震動」掲載、2018. 1. 26, 2017. 11. 11、
3. 久田嘉章、朝日新聞「免震脅かす長周期パルス」情報提供・コメント掲載、2017. 1. 14
4. 久田嘉章、NHK/BS1「巨大危機 MEGA CRISIS 特別編 第 1 集 都市直下地震 新たな脅威 “長周期パルス” の衝撃」、コメント、2018. 1. 10
5. 久田嘉章、NHK WORLD TV「MEGA CRISIS Episode1:Skyscrapers in Aseismic Danger」、コメント、2017. 11. 19
6. 久田嘉章、NHK スペシャル「巨大危機 MEGA CRISIS 特別編 第 1 集 都市直下地震 新たな脅威 “長周期パルス” の衝撃」、コメント、2017. 9. 2
7. 久田嘉章、朝日新聞「教えて！自然災害 中小規模の地震にも備えを」コメント掲載、2017. 8. 30
8. 久田嘉章、日本経済新聞「首都直下地震・減災に挑む、外装、天井も揺れに強く、避難いらずの建物へ」コメント掲載、2017. 7. 10
9. 久田嘉章、朝日新聞「都市防災先端技術の力、地震被害 VR で疑似体験」とどまる避難も知って”」コメント・写真掲載、2017. 5. 28
10. 久田嘉章、神奈川新聞「熊本地震被害調査の家屋調査、断層真上全壊率 5 割超「基準満たす」は不十分」、コメント・資料掲載、2017. 5. 21
11. 久田嘉章、読売新聞「住宅耐震備えのカギ」コメント掲載、2017. 4. 15
12. 久田嘉章、読売新聞「熊本地震 とじ込め 78%一階で、警視庁分析 7 割が 60 歳以上」コメント掲載、2017. 4. 13
13. 久田嘉章、日経アーキテクチャ・追跡熊本地震「「見える化」せよ 「柔」と「剛」の使い分けで地盤変形を吸収」談話掲載、2017. 4. 13

その他、地方新聞に熊本地震の建物被害に関するコメント掲載が 19 編（2017. 5. 20-5. 22）

輩出した博士・修士・学士（博士は氏名・表題・取得年月日、その他は人数のみ）

修士 2 名 学士 9 名（久田）、修士 4 名 学士 6 名（山下）、修士 1 名 学士 6 名（西川）、修士 2 名 学士 5 名（田村）：修士計 9 名、学士 26 計

その他（報告会・シンポジウムの主催・共催、実験の実施など）

置屋根体育館支承部の実験（2017/9～12）

天井用吊材の振動実験（東京工業大学共同 2017/9～2018/2）

新宿駅周辺防災対策協議会・工学院大学による新宿駅周辺地域における震災対策の取り組みのパネル展示、第 22 回「震災対策技術展」横浜、パシフィコ横浜、2018/2/8-9

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業（平成 29 年度）
工学院大学総合研究所 都市減災研究センター（UDM）業績報告書
テーマ 3 業績一覧

著書

1. 柳 宇: 改定建築物の環境衛生管理（上巻）（第 4 版）, p.358, pp.398-404, pp.480-482, pp.502-506, pp.513-517, pp.519-521, 公益財団法人日本建築衛生管理教育センター, 2013.3
2. 柳 宇: レジオネラ防止指針（第 4 版）. pp.56-65, pp.86-88, ビル管理教育センター出版, 2017.7

査読付き論文

1. 長谷川兼一, 吉野博, 柳 宇, 東賢一, 大澤元毅, 鍵直樹: 仙台市内の応急仮設住宅の温熱環境の実態と環境改善に向けた提案、日本建築学会環境系論文集、第 82 巻、第 731 号、pp. 19-29、2017
2. Guangtao Fan, Jingchao Xie, Hiroshi Yoshino, U. Yanagi, Kenichi Hasegawa, Naoki Kagi, Jiaping Liu, Environmental conditions in homes with healthy and unhealthy schoolchildren in Beijing, China, Building and Environment, Volume 112, pp. 270-284, February 2017
3. Jinhua Hu, Nianping Li, Hiroshi Yoshino, U Yanagi, Kenichi Hasegawa, Naoki Kagi, Yingdong He, Yingdong He. Field study on indoor health risk factors in households with schoolchildren in south-central China, Building and Environment; Volume 117, pp. 260-273, 2017, <http://dx.doi.org/10.1016/j.buildenv.2017.03.014>
4. Kenichi Azuma, Koichi Ikeda, Naoki Kagi, U Yanagi, Haruki Osawa. Evaluating prevalence and risk factors of building-related symptoms among office workers: Seasonal characteristics of symptoms and psychosocial and physical environmental factors, Environmental Health and Preventive Medicine, 2017, DOI 10.1186/s12199-017-0645-4
5. 柳 宇、内田悦嗣、滋野弘崇、包 理、小林 誠: ナノファイバフィルタとオゾン発生器を備える空気清浄機による菌の捕集と殺菌効果、空気清浄、第 55 巻、第 2 号、pp. 30-35
6. Guangtao Fan, Jingchao Xie, Hiroshi Yoshino, U. Yanagi, Kenichi Hasegawa, Chunyu Wang, Xiaojing Zhang, Jiaping Liu. Investigation of indoor thermal environment in the homes with elderly people during heating season in Beijing, China, Building and Environment; 126, pp. 288-303, 2017. 09 <http://dx.doi.org/10.1016/j.buildenv.2017.09.031>
7. 長谷川兼一、吉野 博、柳 宇、東 賢一、大澤元毅、鍵直樹: 仙台市を中心とする応急仮設住宅を対象とした 屋内外環境の健康影響に関するアンケート調査、日本建築学会環境系論文集、第 82 巻 第 741 号、pp. 967-975, 2017. DOI <http://doi.org/10.3130/aije.82.967>
8. Naohide Shinohara, Masahiro Tokumura, U. Yanagi. Indoor fungal levels in temporary houses occupied following the Great East Japan Earthquake of 2011, Building and Environment, Volume 129, 26-30, 2017

国際学会論文（査読付も含む）

1. Miku Hatanaka, U Yanagi, Hideaki Nagano, Shinsuke Kato, Actual Conditions of Environmental Microbiome in a University' s classrooms, Healthy Buildings 2017 Europe, Paper ID 0207 ISBN: 978-83-7947-232-1
2. Yuriko Shimura, U Yanagi, Naoki Kagi, The Effect of Mycotoxin to other Fungus Growth Characteristics, Healthy Buildings 2017 Europe, Paper ID 0215 ISBN: 978-83-7947-232-1, 2017
3. Kenichi Azuma, Naoki Kagi, U Yanagi, Hoon Kim, Kenichi Hasegawa, Haruki Osawa: Effects of exposure to water damage on homes after downpours and flooding in Fukuchiyama: indoor environment and human health, Healthy Buildings 2017 Asia, the proceedings pdf, pp.2-4, 2017
4. Kana Hasebe, Shinsuke Kato, U Yanagi, Hideaki Nagano, Shigeo Matsuno, Yudai Takahashi: Establishing quantitative evaluation method of contact infection risk using a qPCR method, Healthy Buildings 2017 Asia, the proceedings pdf, pp. 356-361, 2017
5. Rena Komatsu, Naoki Kagi, U Yanagi, Kenichi Azuma, Hoon Kim, Motoya Hayashi, Noriko Kaihara, Motoharu Osawa: Field measurement of PM2. 5 and particle size distribution in office buildings, Healthy Buildings 2017 Asia, the proceedings pdf, pp. 732-734, 2017
6. T. Umeda and Y. Noro, Study of power supply system using PV and FC at the time of major disaster, Proc. 2017 The International Conference on Electrical Engineering, Weihai, 2017

学術雑誌、商業誌、研究機関への研究報告、展望、解説、論説など

1. 柳 宇：室内空気汚染の現状と対策、建築設備&昇降機、No.126、pp.13-19、2017.03
2. 柳 宇：建築物における微生物汚染対策・バイオテロ対策、朝日工業社 Technical Letter、No.29、pp.1-3、2017
3. 柳 宇：生活環境空気中の浮遊菌、化学療法の領域、Vol.33、No.5、pp.67-73、2017.05
4. 柳 宇：高齢者住居の微生物環境と健康影響、保健医療科学、Vol.66、No.1、pp.136-140、2017.06
5. 柳 宇：空調除菌・加湿に関する技術動向、建築設備と配管工事、Vol.55、No.7、pp.1-6、2017
6. 柳 宇：高齢者施設における温熱環境の実態、空気清浄、第55巻、第1号、pp.10-15、2017
7. 柳 宇：高齢者施設における微生物汚染と集団感染の実態、第55巻、第1号、pp.22-27、2017
8. 柳 宇：室内空気質のための必用換気量、空気調和・衛生工学、第91巻、第8号、pp.45-49、2017
9. 柳 宇：ASHRAEにおける感染症に対する病院空調設計法、クリーンテクノロジー、pp.56-61、2017
10. 柳 宇：換気と健康・快適性、空気調和・衛生工学、第91巻、第10号、pp.49-53、2017
11. 鍵直樹、柳 宇：美術館における室内空気汚染の実態、空気清浄、第55巻、第4号、pp.17-21、2017

口頭発表

1. 佐藤智太、吉田舜、中島裕輔：駅周辺エリアにおける平常時・非常時を考慮したデジタルサイネージの活用手法に関する研究、日本建築学会関東支部研究報告集、2018.3
2. 柳 宇、吉野博、後藤伴延、長谷川兼一、鍵直樹、張晴原：中国住宅における温熱環境とヒートショックによる死亡率の関係に関する調査研究、第51回空気調和・冷凍連合講演会講演論文集、pp.38-41、2017.04
3. 光岡真知子、柳 宇、永野秀明、加藤信介：病院待合室におけるマイクロバイオームの粒径特性に関する検討、第51回空気調和・冷凍連合講演会講演論文集、pp.42-45、2017.04
4. 志摩輝治、柳 宇、鍵直樹、金 勲、東賢一、大澤元毅：オフィスビルにおける室内浮遊微生物濃度の長期測定 その2、第34回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会予稿集、pp.80-83、2017.04
5. 高橋雄大、加藤信介、柳 宇、永野秀明、松野重夫：環境マイクロバイオームの性状把握、第34回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会予稿集、pp.84-85、2017.04
6. 長谷部花奈、加藤信介、柳 宇、永野秀明、松野重夫：qPCR法を用いた接触感染リスクの定量的評価手法の確立、第34回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会予稿集、pp.86-88、2017.04
7. 柳 宇、志村ゆり子、内田悦嗣、滋野弘崇、町田正、丸橋啓司、包 理、小林 誠：ナノファイバフィルタとオゾン発生装置を備える空気清浄機の除菌と殺菌効果、第34回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会予稿集、pp.89-91、2017.04
8. 原田千聡、鍵直樹、東賢一、大澤元毅、柳 宇、金 勲、長谷川兼一、萬羽郁子：木材の乾燥方法と環境湿度の違いがVOC発生に与える影響、第34回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会予稿集、pp.143-145、2017.04
9. 小松礼奈、鍵直樹、柳 宇、東賢一、金 勲、林基哉、開原典子、大澤元毅：事務所建築物室内における室内PM2.5の粒径別評価、第34回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会予稿集、pp.179-182、2017.04
10. 柳 宇：ASHRAEにおける病院設計の最新動向、第26回日本臨床環境医学会学術集会
11. 開原典子、林基哉、大澤元毅、金 勲、柳 宇、東賢一、鍵直樹：建築物衛生法における空気環境の報告徴取と立入検査に関する実態、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.1285-1286、2017
12. 張晴原、吉野博、柳 宇、長谷川兼一、後藤伴延、鍵直樹：中国における循環器系疾患の死亡に対する住環境要因の関連性評価と防止対策の提案 その1 中国における脳卒中による死亡率の影響因子、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.1119-1120、2017
13. 金 勲、柳 宇、鍵直樹、東賢一、大澤元毅、林基哉：室内環境中エンドトキシンに関する研究 その1 空気中エンドトキシン濃度と培養法による浮遊細菌濃度との関係、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.613-614、2017
14. 長谷部花奈、加藤信介、柳 宇、永野秀明、高橋雄大、松野重夫：遺伝子解析技術を用いる接触感染リスクの定量的評価手法の開発 一手のひらの細菌採取率と接触による細菌伝播率の検討、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.639-640、2017
15. 新村美月、柳 宇、鍵直樹、長谷川兼一、東賢一、金 勲、大澤元毅：カビ増殖特性に与える木材の含水率の影響に関する検討、日本建築学会2017年度大会
16. 瀬戸啓太、柳 宇、永野秀明、鍵直樹、大澤元毅、金 勲、東賢一、加藤信介：オフィスビルにおけるマイクロバイオームの実態の解明に関する研究 第3報 一冬期と夏期における細菌叢の比較、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.641-642、2017
17. 加藤信介、柳 宇、永野秀明、伊藤一秀、山中俊夫、小林光、羽山広文：建築環境における呼吸器系病原体モニタリング法の確立に関する研究 その1 マイクロバイオーム解析に基づく室内環境モニタリングの意義、2017年度日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.633-634、2017

18. 柳 宇、加藤信介、永野秀明、伊藤一秀、山中俊夫、小林光、羽山広文：建築環境における呼吸器系病原体モニタリング法の確立に関する研究 その2 KG 大学研究室におけるマイクロバイオームの調査結果、2017 年度日本建築学会大会学術講演梗概集、pp. 635-636、2017
19. Kana Hasebe, Shinsuke KATO, U YANAGI, Hideaki NAGANO, Toshi YAMANAKA, Hikaru KOBAYASHI, Hirofumi HAYAMA, Shigeo MATSUNO. Establishing quantitative evaluation method of contact infection risk using qPCR method: Difference of bacteria collection rate depends on the moisture condition, 空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp. 5-8、2017
20. 藤井結那、柳 宇、加藤信介、永野秀明：医療施設におけるマイクロバイオームの実態とその対策方法に関する研究 第1報 待合室内マイクロバイオームの実態把握、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp. 49-52、2017
21. 光岡真知子、柳 宇、藤井結那、永野秀明、加藤信介：医療施設におけるマイクロバイオームの実態とその対策方法に関する研究 第2報 諸環境とのマイクロバイオームの比較、pp. 53-56、2017
22. 畑中未来、柳 宇、永野秀明、加藤信介：学校環境におけるマイクロバイオームの実態に関する調査研究 第2報 秋季における細菌叢と室内環境の関連性、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp. 57-60、2017
23. 瀬戸啓太、柳 宇、永野秀明、鍵直樹、大澤元毅、金 勲、東賢一、加藤信介：オフィスビルにおけるマイクロバイオームの実態解明に関する研究 第4報 2016年の調査における中央方式と個別方式の比較、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp. 61-64、2017
24. 志摩輝治、柳 宇、鍵直樹、東賢一、金 勲、大澤元毅：オフィスビルにおける室内環境に関する長期調査研究、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp. 85-88、2017
25. 原田千聡、鍵直樹、西岡芙実、東賢一、柳 宇、大澤元毅、長谷川兼一、萬羽郁子：木材から発生する VOC の特徴と住宅における実測調査、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp. 77-80、2017
26. 開原典子、林基哉、大澤元毅、金 勲、柳 宇、東賢一、鍵直樹：特定建築物の室内空気環境データの分析、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp. 81-84、2017
27. 光岡真知子、柳 宇、永野秀明、加藤信介：病院待合室におけるマイクロバイオームの特性、日本防菌防黴学会第44回年次大会要旨集、p. 66、2017
28. 志摩輝治、柳 宇、鍵直樹、東賢一、金 勲、大澤元毅：オフィスビルにおける浮遊微生物に関する長期調査、日本防菌防黴学会第44回年次大会要旨集、p. 256、2017
29. 小松礼奈、鍵直樹、柳 宇、東賢一、金 勲、林基哉、開原典子、大澤元毅：建築物における粒径分布を考慮した室内粒子濃度の予測、平成29年室内環境学会学術大会講演要旨集、P23、2017
30. 原田千聡、鍵直樹、西岡芙実、東賢一、柳 宇、大澤元毅、金 勲、長谷川兼一、萬羽郁子：木材を使用した住宅における室内VOC濃度の特徴、平成29年室内環境学会学術大会講演要旨集、P20、2017
31. 柳 宇、加藤信介、永野秀明：オフィスビルにおける自然換気時の室内空気質に与える大気汚染の影響—自然換気時の室内マイクロバイオーム特性—、平成29年室内環境学会学術大会講演要旨集、A01、2017
32. 梅田拓磨、野呂康宏、大災害時の避難所における独立型電力供給システムの検討（その2）、電気学会電力・エネルギー部門大会、2017年9月
33. 久保陽平、野呂康宏、自立移動式ゼロエネルギーユニット（D-ZEV）における電力供給システムの検討、電気学会電力技術・電力系統技術研究会、2017年9月
34. 梅田拓磨、野呂康宏、大災害時の都市部避難所における独立型電力供給システム、電気学会スマートファシリティ研究会、2018年1月
35. 久保陽平、野呂康宏、移動式ゼロエネルギーユニット（D-ZEV）における電力供給システムの検討（その2）、H30 電気学会全国大会、2018年3月

各種メディア（新聞・テレビ・ラジオなど）・展示会等で公表

1. 野呂康宏、水野修、自立移動式ゼロエネルギーユニットの電力ユニット・情報通信システム、第16回国際先端技術シンポジウム（研究シーズ展示）、2017年11月1日

輩出した博士・修士・学士（博士は氏名・表題・取得年月日、その他は人数のみ）

学士1名（中島）、学士2名（水野）、学士1名（横山）、修士1名 学士2名（野呂）
：修士計1名、学士計6名

その他（報告会・シンポジウムの主催・共催、実験の実施など）

1. 電力システム技術東京私学連合ランチ発表会（電気学会後援の卒論生発表会主催）、2017年11月26日